

令和2年4月



令和2年度 大田区立仲六郷小学校 学校経営計画

大田区立仲六郷小学校
校長 山本 秀一

I はじめに

令和2年度は、新学習指導要領全面実施元年である。

社会の変化が激しく、未来の予測が困難な時代の中で、子どもたちには自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められる。学校教育においても、そのような時代・社会を想定したうえで、育成を目指す資質・能力を踏まえた教育課程を編成するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するための日々の授業改善を推進することが大切である。

大田区立仲六郷小学校は、歴代の教職員・学校関係者の努力、保護者・地域の方々の理解とあたたかい協力・支援に支えられ、今年度で開校63周年を迎えることとなった。

ここでまさに、「不易流行」の精神を大切にしたい。これまで築かれてきた本校の歴史と伝統、特色ある教育活動のよさを基盤としつつ、未来を創り生き抜く力を備えた子どもたちの育成を目指す、柔軟でしなやかな学校、常に進みつつある学校でありたい。

最近本校では、児童数の減少による学校の小規模化の傾向がみられる。今年度は47名2学級の新1年生を迎え、学校全体で児童数249名10学級（4月当初）となった。小規模な学校ならではの特色や利点を生かしつつ、保護者や地域からの信頼を深め、さらに魅力のある学校の構築に向けて努力していきたい。

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしなが、社会との連携・協働により、その実現を図っていく。

また令和2年度は、別の意味でも特別な年となった。昨年度末から続く、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、世界レベルでこれまで経験したことのない困難なスタートとなった。本校の教育活動を推進するにあたって、カリキュラム・マネジメントを通して教育課程の臨機応変な見直しが求められるようになることが予想される。また学習・生活の両面にわたり、児童への影響が懸念される。様々な制限を受け、今後の見通しが立ちにくい状況の中でも、チームとして知恵を出し合い、今、学校ができること・必要なこと・優先すべきことは何かを考え、子どもたちの心・学び・成長を支え続ける学校でありたい。

社会の変化やニーズを踏まえた教育施策

国の法令・施策・学習指導要領

社会に開かれた教育課程

育成を目指す資質・能力 / カリキュラム・マネジメント / 主体的・対話的で深い学び
(知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性)

東京都教育ビジョン 基本的な方針から抜粋

- ・全ての児童・生徒に確かな学力を育む教育
- ・社会の持続的な発展をけん引する力を伸ばす教育
- ・グローバルに活躍する人材を育成する教育
- ・夢と志をもち、可能性に挑戦しようとする力を育む教育
- ・豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育
- ・健やかな体を育て、健康で安全に生活する力を育む教育
- ・オリンピック・パラリンピックの精神を学び、育む教育
- ・教育の質を向上する「働き方改革」
- ・質の高い教育を支える環境の整備
- ・家庭・地域・社会と学校とが連携・協働する教育活動

おおた教育ビジョン

- ビジョンⅠ
社会の変化に主体的に対応し、未来を創る力を育成する
- ビジョンⅡ
「知・徳・体」の調和のとれた成長を図り、豊かな人間性を涵養する
- ビジョンⅢ
意欲にあふれ、個性と可能性を最大限に伸ばす学びの場を創出する
- ビジョンⅣ
地域の特色を生かし、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもを育てる

大田区立仲六郷小学校 教育目標

日々新しく伸びゆく仲六の子

⑧ かよくする子

⑧ かんがえる子

ここ⑧ ゆたかな子

はたら⑧ 子

2 学校経営の中期的コンセプト

子どもたちにとっての「大好きな学校」

- ・一人一人が目標をもち、安心・安全で楽しい学校生活を送ることができる。
- ・友達や先生、その他様々な人との関わりを通じて、自分のよさを発揮したり人のよさを感じたりすることができる。
- ・楽しく価値ある学習・活動ができる。
- ・充実した活動を通して学力や体力等が向上し、それを自ら実感し自信・自己有用感もつことができる。

だれにとっても「大好きな学校」

教職員にとっての「大好きな学校」

- ・同僚性が高い職場であるとともに、ライフ・ワーク・バランスが良好な環境である。
- ・教師としての力量の向上を図ることができる。
- ・指導を通して子どもの変容・成長を実感し、喜びを感じることができる。
- ・児童・学校・地域への愛情を感じ、自らのアイデアと力で貢献しようとする意欲をもつことができる。

保護者・地域の方々にとっての「大好きな学校」

- ・子どもが生き生きと学校に通い、知・徳・体の調和のとれた成長をしている。
- ・取組がわかりやすく、創意工夫したり、指導方法を改善したりしながら活動に取り組んでいる。
- ・学校とのつながりが深く、学校の教育活動にも協力、参画、貢献することができる。

3 令和2年度の重点と方策

(1) 学力の向上 **【かんがえる子】**

- 基礎学力の確実な定着
 - ・わかる・できる・自信につながる指導法を目指した校内研究の充実を図る。
 - ・限られた時間を意識し、軽重を意識した指導を実施。必要な習熟は十分に図る。
 - ・表現力の基盤となる語彙を豊かにする言語活動の工夫・言語能力の向上に取り組む。
(国語や読書活動を核として、あらゆる教科・領域において)
 - ・授業のユニバーサルデザイン化を意識した指導技術の向上を図る。(環境調整・発問や指示・板書・教材提示等)
 - ・小規模校の特性を生かした個に応じた指導の充実を図り、補習等によるフォローアップを徹底する。
 - ・家庭学習との連携を強化する。(「家庭学習のすすめ」の活用)
- 体験的な学習の充実、思考力・判断力・表現力、情報活用能力の育成
 - ・児童にアウトプットさせることを意識した学習活動や授業展開を工夫する。
 - ・スピーチ大会、連合音楽会、展覧会、運動会、諸発表会等の行事を核として、多様な表現活動の機会をつくる。
 - ・ICTを積極的に活用して児童のコンピュータ・リテラシーやプログラミング的思考の向上を図る。
 - ・カリキュラム・マネジメントによる系統的・教科横断的な指導を計画・実施する。
 - ・外国語・外国語活動の授業の充実を図る。

(2) 人とのかかわりを大切にする活動の重視・豊かな心の育成

【なかよくする子・心ゆたかな子】

- 互いの信頼と児童の安心感や所属意識を高める学年・学級経営の充実
 - ・学校生活調査や Hyper-QU の活用等により、望ましい人間関係づくりに努める。
 - ・学級活動(クラスタイム)や諸行事の活動等を通じて、児童所属意識や自己有用感を高める。
- 人とのかかわりを重視した学習や多様な活動の計画・工夫
 - ・全校であいさつ指導を重点的に取り組む。「あいさつレベル5」を指標として、児童一人一人のよりよいあいさつにつながる指導を行う。
 - ・複数学年での交流学习やなかよしキッズタイム等の異学年交流活動を設定し、充実を図る。
 - ・小中一貫教育や保幼小連携教育、保護者や外部人材等を活用した学習活動、特別支援学校の児童や高齢者等、多様な人とかかわる学習活動を設定し、その充実を図る。
- 道徳教育や読書活動、かかわり合って表現する活動の充実
 - ・道徳科を要とする道徳教育の計画的な実施と活動の充実を図る。
 - ・年3回の読書週間を中心に、読書学習司書と連携して多様な読書活動を工夫する。
 - ・各教科の指導において、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
 - ・「仲六小のやくそく」や「小中一貫教育 志茂田中学校区スタンダード」に基づき、規範意識の向上と基本的な生活習慣の定着を図る。

(3) 体力の向上・根気よく取り組む意欲と態度を育む活動の重視 **【はたらく子】**

- 体育の授業・体育的活動・健康教育の充実
 - ・楽しさと運動量を常に確保した体育の授業づくりを行う。体育的活動(仲六道場・体育朝会・○○週間・高架下ひろばの活用)を計画的・重点的に実施することにより、児童への運動への意欲や運動能力を高める。今年度重点=投力・跳力・持久力
 - ・様々な学習活動を通して健康教育や食育の充実を図る。

- 児童活動や学校行事の充実
 - ・発達段階に応じて、自ら考えたて計画したり、工夫して取り組んだり、振り返って改善を図ったりすることができる活動を工夫する。
 - ・適度な「負荷」をかけることを意識し、簡単にくじけたりあきらめたりしない児童の育成を目指した活動を工夫する。
- キャリア教育の充実
 - ・キャリアパスポートを活用して、学習や活動の見直しをもったり振り返ったりする活動を通して、新たな意欲につなげたり将来の在り方・生き方を考えたりする活動を行う。
 - ・発達段階に応じて、諸活動を通じ働くことの意義や楽しさ、自分の在り方を考えさせる活動を位置付ける。

(4) 児童理解に基づく特別支援教育の充実・適応に向けた取組

- ・児童一人一人の理解に努め、学習のみならず生活や適応の面でも個に応じた指導を行う。
- ・サポートルーム拠点校としての強みを生かし、担任・専科と巡回指導教員や特別支援教室専門員、巡回心理士等との連携した指導を大切にする。
- ・スクールカウンセラーや登校支援員等の人材を生かし、チームとして不登校・不適応の児童への支援を計画的・継続的に行う。

(5) 教職員のスキル向上と働き方

- スキル向上
 - ・各職に応じたスキルの向上を常に目指す。
 - ・教員は、校内研究や定期的に行う相互授業観察(ペア研修)、若手教員育成研修(校内における研修)、計画的なOJT、区や都が実施する専門性向上研修(off-JT)等を通して、教員一人一人の授業力・指導力の向上を図る。また、自己申告の機会を通じて、自己研さんの充実を図る。
- 校務におけるプロジェクト・チーム(PT)の試行
 - ・ICT活用・ホームページ等担当PT、オリンピック・パラリンピック教育推進担当PTを創設。若手教員を中心に構成し、自由度が高い2つの部門で企画立案と推進を担当することとする。(定例会はなし。自主性と創造性を重視)
- ライフ・ワーク・バランス
 - ・カリキュラム。マネジメントを通じて、教育課程の改善(スクラップ&ビルド)に努める。特に、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業の影響が大きいため、児童の資質・能力を重視する観点に基づき、もともと計画していた教育活動を、優先順位をつけて見直していく。
 - ・それに伴って、教職員自身の意識改革を図る。在校時間が週60時間を超えない働き方を確実に実現するための方策を、運営委員会を中心に検討する。

(6) 家庭・地域と共に歩む、開かれた学校づくり【学校・家庭・地域】

- 学校からの積極的な情報発信
 - ・学校広報の充実、特に学校ホームページの充実を図り、情報発信ツールの中核とする。PTを中心に企画し、全教職員で情報発信に努める。(目標値:なかろくDIARY年300号以上/月25号以上)
- 家庭やPTAとの連携
 - ・PTA活動との連携、PTA行事や地域行事への協力・参画
- 学校支援地域本部「スクールサポート仲六」のサポートによる地域力の活用
 - ・夏休みわくわくスクール、キャリア教育支援等における地域人材の活用
- 学校評価に基づく経営計画及び取組の改善
 - ・地域教育連絡協議会「ふるさと会」による学校行事や学校評価等への参画と、それに基づく学校改善の取組を推進する。